

消防職員採用試験対策講座 A		講義	准教授 黒沢 賢一
科目カテゴリー	救急救命士コースの必修科目	科目ナンバリング	13120301

1. 授業のねらい・概要

消防職員採用試験では一次試験で教養試験(数は少ないが専門試験を課す自治体もある)。二次試験で論作文試験、体力検査、適性検査、面接試験が行われる。教養試験に合格しなければ二次試験に進むことはできず、消防職員をめざすなら、まずは教養試験対策に取り組まなければならない。

教養試験分野の問題は大きく一般知能と一般常識(知識)に分けられるが、合否を決するのは一般知能の問題である。一般知能はさらに判断推理、空間把握、数的推理、資料解釈などに分けられ、この授業では判断推理と空間把握について、その問題の解き方を講義する。判断推理はクイズのような問題で、空間把握はパズルのような問題である。いずれも公務員試験独特のもので、学校では習ったことがなく、最初はとまどうかも知れないが、試験に出題される問題は決まっているので、その解法パターンをひとつでも多く身につけていくことが大切である。合格ラインをこえるために必要な解法パターンはこの授業ですべて身につけることができるようにする。また判断推理と空間把握の講義と並行して、授業では一般常識の主要科目である社会科学の試験に出るポイントも解説していく。さらに最近の人物重視の試験傾向をふまえて、面接攻略のためのポイントも講義する。

科目名は消防職員採用試験対策講座となっているが、授業は消防職員のほかにも警察官、刑務官など公安系(体力系)試験にも対応している。最近では就職試験で課される SPI や SCOA を実施するところもあり、それらの内容にも配慮した授業内容にするので、民間企業への就職を考えている学生にも役立つ内容になる。

2. 授業の進め方

毎回の授業は、①一般知能テスト(判断推理、空間把握の過去問を教材にした頻出問題を出題)→②解説講義→③一般常識のポイント解説講義という流れで進んでいく。面接対策については講義形式をとる。

3. 授業計画

1. ガイダンス 〈判断推理〉	〈空間把握〉
2. 順序関係	9. パズル問題(図形の分割・構成)
3. 位置関係	10. 軌跡と移動
4. 対応関係	11. 立体図形
5. 推理	12. 展開図
6. 命題と論理・集合算	13. サイコロと位相
7. 真偽・暗号	〈面接対策〉
8. 操作・手順	14. 面接攻略法
	15. まとめ講義

※判断推理、空間把握のほかに社会科学分野の消防職員採用試験に出題されるポイントも解説する。

4. 準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習は必要ないが、授業を受けた後は必ず一般知能テストで出題された問題について、授業中にとったノートとは別のノート(これを「課題ノート」と呼ぶ)に問題の解き方を詳細にまとめ直し、すべての問題について何も参照しないで解けるようになるまで、くり返し復習することが求められる。一般常識については、テキストの指定された範囲のポイントを暗記するまで反復する。そのための復習時間としては2時間以上必要になる。

5. 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

テスト、課題ノート返却時に評価のポイントなどを指摘する。

6. 到達目標

- (1) 消防職員採用試験に出題される一般知能の解法の基礎が理解できるようになる。
- (2) 消防職員採用試験に出題される社会科学の知識を修得する。

(3) 消防職員採用試験の面接に向けた準備ができるようになる。

7. 成績評価の方法・基準

授業内で実施する確認テスト(50%)と課題ノートの提出(50%)によって評価する。

8. テキスト・参考文献

- (1) 黒沢賢一著『Point Master 社会科学の論点』（三恵社） 毎回使用するので必ず持参すること。
- (2) その他の受験教材については授業の中で紹介する。

9. 受講上の留意事項

毎回、授業のはじめに一般知能のテストをするが、できなくても気にする必要はない。解説講義を聞いて、くり返し復習してできるようになればいい。解説講義はただ聞いているだけでなく、説明の内容をしっかりとメモし、ポイントを聞き逃さないようにすることが大切である。

授業中の私語やスマートフォン、イヤホン等の使用、他の学生に迷惑となる教室内の秩序を乱す行為については厳しい態度で臨むので十分留意すること。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。